

5 . 阿蘇の草原は今 - 熊本県による調査結果より

阿蘇の草原及び牧野組合の状況に関する調査は、平成 10 年から概ね 5 年毎に行われており、平成 23 年度は、熊本県企画振興部により「阿蘇草原維持再生基礎調査」として牧野組合を対象に調査が行われました。阿蘇地域内（旧蘇陽町を含む）の 174 牧野を対象とした調査結果から、阿蘇の草原の現状を紹介します。

牧野面積、野草地面積の推移

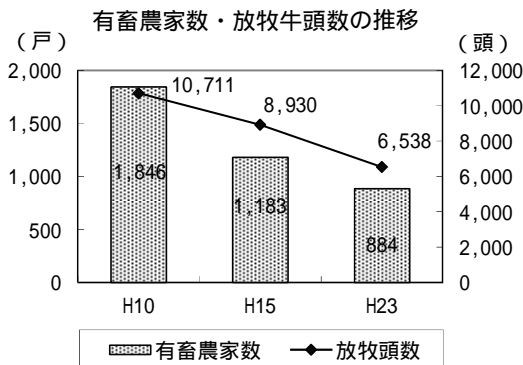
- ・ 牧野組合等が管理する牧野面積は、平成 23 年現在で 21,986ha、そのうち野草地は 15,690ha（約 72%）。
- ・ 平成 15 年から 8 年間で、牧野面積は 142ha 減少。野草地は 426ha 増加する反面、牧草地は 666ha 減少し、野草地と牧草地をあわせて草地は 240ha の減少。

維持管理の担い手の状況

- ・ 平成 23 年の入会権者数は 9,193 戸、そのうち有畜農家は 1 割弱（884 戸）。
- ・ 平成 15 年と比較すると入会権者数は 567 戸、有畜農家は 299 戸減少。

放牧の状況

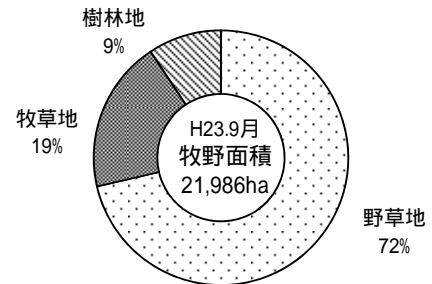
- ・ 平成 23 年の調査対象 174 牧野のうち 121 牧野で放牧利用、放牧頭数は計 6,538 頭であり、平成 15 年の約 73% に減少。



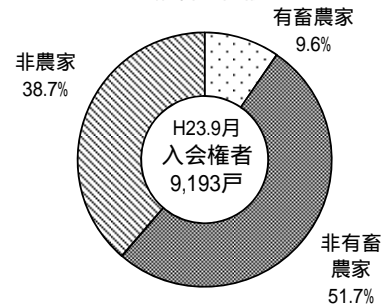
野焼き・輪地切り

- ・ 野焼き面積は 16,354ha、8 年間で 90ha の増加。
- ・ 輪地切り延長は約 530km、8 年間で約 110km 減少。
- ・ 野焼き・輪地切りへの地元の人々の出役者数は延べ 11,281 人、支援ボランティアの参加は延べ 2,137 人。合わせて 13,418 人が 1 年の野焼き・輪地切り作業に関わっている。平成 15 年調査と比較すると、地元の人々が 1 割以上減少する反面、支援ボランティア参加数は 2.5 倍以上になっている。
- ・ 地元出役者の年齢を見ると、野焼き出役者の 4 割が 60 歳代以上、輪地切り出役者の平均年齢は H15 年から 3 歳上昇して 58.7 歳と

牧野面積の内訳



入会権者の内訳



牧野面積の推移

	H10年 (ha)	H15年 (ha)	H23年 (ha)	H15～H23増減	
				面積(ha)	増減率
牧野総面積	22,434	22,128	21,986	-142	-0.6%
内訳					
野草地	15,116	15,264	15,690	426	2.8%
牧草地	5,365	4,911	4,245	-666	-13.6%
樹林地	1,953	1,953	2,051	98	5.0%

入会権者数、農家数の推移

	H10年 (戸)	H15年 (戸)	H23年 (戸)	H15～H23の増減	
				戸数	増減率
入会権者戸数	10,268	9,760	9,193	-567	-5.8%
内訳					
有畜農家	1,846	1,183	884	-299	-25.3%
非有畜農家	5,019	5,263	4,753	-510	-9.7%
非農家	3,403	3,314	3,556	242	7.3%

野焼きの状況

	H10	H15	H23	H15～H23の増減	
				増減数	増減率
野焼き面積	16,064ha	16,264ha	16,354ha	90ha	0.6%
地元出役者数	7,673人	7,426人	6,541人	-885人	-11.9%
支援ボランティア	110人	507人	1,054人	547人	107.9%

輪地切りの状況

	H10	H15	H23	増減数	増減率
輪地切り延長	-	639,939m	530,197m	-109,742m	-17.1%
地元出役者数	5,609人	5,409人	4,740人	-669人	-12.4%
支援ボランティア	-	317人	1,083人	766人	241.6%
地元出役者平均年齢	52.8歳	55.7歳	58.7歳	3.0歳	5.4%

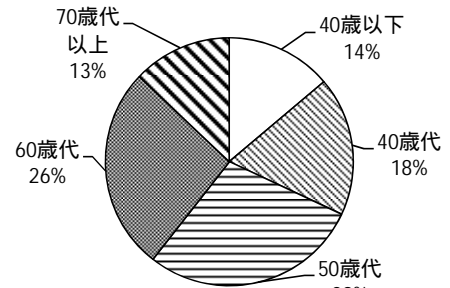
なり、高齢化が進んでいる。

- 野焼き・輪地切り支援ボランティアの受入れ牧野は年々増加し、平成 22 年度の野焼きには全体の 26%にあたる 49 組合が受け入れている。

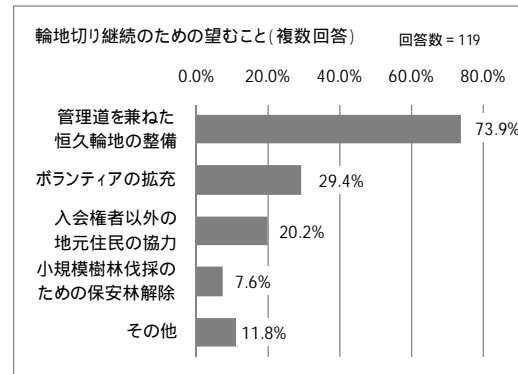
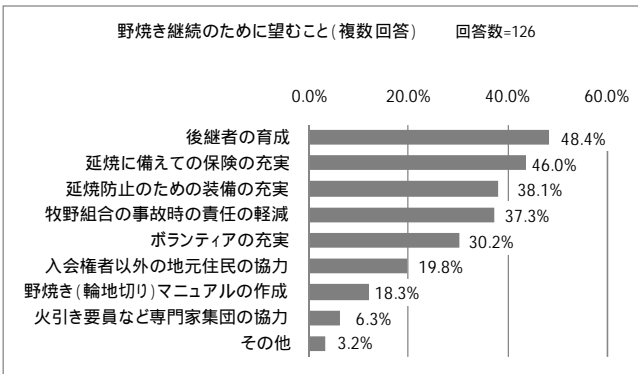
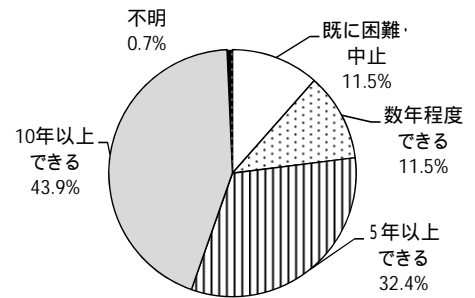
今後の野焼き・輪地切りの継続

- 野焼き・輪地切りについて、今後 10 年以上継続可能と回答した牧野は約 44%。
- 既に困難または中止している牧野が 1 割強あり、5 年後も継続可能な牧野は現在の 76%である。
- 野焼き継続のために最も望まれているのは後継者の育成（48%）。次いで、延焼した際の備えに関する要望が多く、保険の充実（46%）、ジェットシューターや動力噴霧器など装備の充実（38%）、事故の際の組合の責任軽減（37%）となっている。
- また、輪地切り継続のために最も必要とされているのは、管理道を兼ねた恒久輪地の整備で 74%となっている。

地元の野焼き出役者の年齢構成



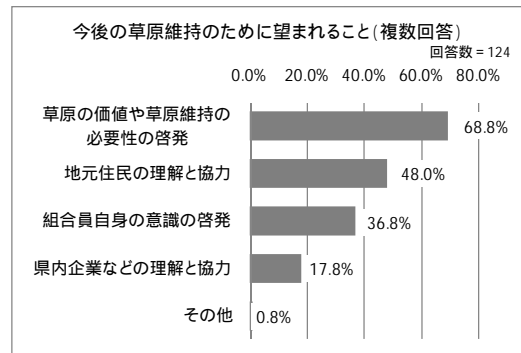
野焼き・輪地切りが、あとどれくらい継続できるか



今後の草原維持のために

- 7 割近くが「草原の価値や草原維持の必要性の啓発」を、半数近くが「地元住民の理解と協力」を望んでおり、草原再生に向けて地域内外の幅広い人々の合意形成をさらに進めていくことが必要となっている。

出典：H23.9月「阿蘇草原維持再生基礎調査」/熊本県企画振興部地域振興課
 関連データ：H11.12月「阿蘇郡牧野および牧野組合現況調査」/くまもと楽座評定会、熊本日日新聞社、(公財)阿蘇グリーンストック、平成 15 年「牧野組合調査結果/環境省及び熊本県阿蘇地域振興局農業普及振興課



草原再生に向けた熊本県の取り組み

熊本県では、これまで阿蘇の草原の保全・再生に関連して畜産や観光、環境関連など様々な施策を実施してきましたが、平成 24 年 5 月には蒲島県知事より、「かばしまイニシアティブ」として草原再生の取組そのものも支援していくことが表明されました。

阿蘇草原再生「かばしまイニシアティブ」H24.5.31

従来：畜産・観光、環境行政等を通じ結果的に草原再生に寄与

今後：百年の礎を築くため、草原再生の取組そのものを支援

野焼きの安全対策強化

阿蘇デザインセンターに「草原の維持・再生」を新たなミッションとして追加

民間からの募金・協力金、企業のCSR活動を積極的に促進